

学校だより



市川市立平田小学校

いなほ  
稲穂

学校教育目標  
夢をもち、たくましく生きる  
子どもの育成

No.20

R 7年2月10日

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

校長 蜂須賀 久幸



## 「ありがとう」を口ぐせに！

他人から何かをしてもらったとき、私たちは自然に「ありがとう」と口にしています。相手の気遣いに対する感謝の言葉です。逆に、「この世の中で最も不幸な人は、感謝の心のない人である」と言われることだってあるくらいです。では、「ありがとうの反対語」は何かと尋ねられたら、何と答えますか。「ごめんなさい」でしょうか？

語源をたどってみましょう。「ありがとう」は、形容詞の「有り難し」が変化した「有り難く」の「く」の部分が「う」と発音されるようになったもの。つまり、「有ることが難しい」という意味をもち、滅多にないことや貴重であること、珍しいことを指しています。他者から何かをしてもらうことは滅多にない、有り難いことであるというところから「有り難し」「有り難う（ありがとう）」になり、時の経過とともに感謝やお礼の言葉として定着したといえます。古くは、仏教の『盲亀の浮木（もうきのふぼく）』という喩え話にあるとされますので、簡単に紹介します。

ある時、お釈迦様が阿難（あなん）という弟子に、「あなたは、人間として命を授かったことをどのように思っているか」と尋ねました。阿難は、「大変な喜びを感じております」と答えます。すると、お釈迦様は次のように話しました。

“大海原の底に、目の不自由な一匹の亀がいる。その亀が、百年に一度、息を吸うために波の上に顔を出すのだそう。広い海には、一本の浮き木(丸太)が浮いており、その木の真ん中に穴が一つだけ開いている。「阿難よ。百年に一度海面に顔を出したこの亀が、浮かび上がった拍子に丸太の穴から自分の頭を出すことができるだろうか」と。



阿難は驚いて、「考えられないことです」と答えました。すると、お釈迦様は「絶対に言い切れるか？」「誰もがあり得ないと思うだろうが、全くないとは言いきれない」と言うのです。「阿難よ。私たちが人間に生まれるということは、この喩えよりさらにあり得ない。つまり、難しい、有り難いことなんだよ」と教えたのです。

改めて「ありがとうの反対語」を考えてみましょう。仮に、誰かに乗り物で席を譲ってもらったとしましょう。「ありがとう」は、感謝でありお礼であるとともに「有り難い」ことを意味するわけですから、それを言わない人は、譲ってもらったことを「有り難いとは思っていない」、つまり「当たり前」と考えていることになります。

別の例で考えてみましょう。レストランで注文した料理が運ばれてきます。「お待たせしました。ご注文の品でございます」と店員さんが丁寧に言います。でも、ここで「ありがとう」を口にする人をあまり見ません。どうしてでしょう？それは、客としてお金を支払って食べるのですから、注文品が提供されて当たり前と思っているからでしょう。先の例同様、当たり前と思えば「ありがとう」という言葉は出てきません。したがって、「ありがとうの反対語」は「当たり前」となるわけです。感謝の心がなければ、いずれ不平・不満が募って幸せを感じることもできなくなりそうな気がしてきます。

私たちは、一人では生きていけません。多くの人のおかげで生かされているとも言えるかもしれません。そう考えて振り返ったとき、昨日、そして今日のあなたは、何回「ありがとう」を口にしましたでしょうか？平田小学校にかかわるみな、**「ありがとう」を口ぐせにする者でありたいのです！**

## 平田小には、特別支援学級・通級指導教室があるけれど…？

	特別支援学級 (知的障がい)	特別支援学級 (自閉症・情緒障がい)	通級指導教室 (自閉症・情緒障がい)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 発達が全体的にゆっくりであり、個に応じた学習課題や支援が必要である場合。</li> <li>* 小集団での活動や個々の能力やペースに合わせて設定された課題に取り組みながら学習を重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 知的な遅れはないが、気持ちのコントロールが難しかったり、集中することが難しかったりするため、学習や生活に困難さがある場合。</li> <li>* 個々のニーズに応じた指導とともに、学年・学級の授業や行事に参加をしてソーシャルスキル・コミュニケーションスキルを身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通常学級での学習が可能な児童対象。</li> <li>* 情緒面や集団生活を送るうえで困難さがある場合。</li> <li>* 1対1の個別指導を中心に、個々のニーズに応じた内容指導を週1回90分程度の指導時間で行う。</li> </ul>
手続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>* まずは、学級担任に相談する。</li> <li>* 教育センターに連絡をして、保護者面接や児童心理検査を行う。教育支援委員会で審議され、結果が通知される。</li> <li>* 見学希望の場合は、当該小学校に連絡して日程を確認後、訪問の予約をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教育センターに相談する。</li> <li>* 並行して通級担当に相談・面談もできる。ただし、見学は場所のみ。</li> </ul>
人数	小集団(1クラス8人まで)		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通常学級に在籍する。</li> <li>* 週1～8時間程度の個別指導。</li> <li>* 実態によって、ペア学習も行う。</li> </ul>
学区等	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学区の学校、または隣接する中学校へ通学することを基本とし、安全や通学の負担等を考慮して義務教育課と協議する。</li> <li>* 自力通学を目指す。(中学校では、公共交通機関利用もある)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通常学級に在籍する。</li> <li>* 週1～8時間程度の個別指導。</li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 実態を考慮した特別の教育課程を編成できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通常学級の教育課程を基本とする。</li> <li>* 実態に応じた自立活動の取り組みを設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自立活動の6区分を参考に、個に応じた目標や指導内容を設定する。</li> <li>* 学習の補講ではないが、個に応じた学び方の支援はある。</li> </ul>
<p>★自立活動とは、個々の子供たちの課題に応じて、障がいによる学習上、あるいは生活上の困難を改善・克服するための指導をいう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>①健康の保持に関すること</span> <span>②心理的な安定に関すること</span> <span>③人間関係の形成に関すること</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>④環境の把握に関すること</span> <span>⑤身体の動きに関すること</span> <span>⑥コミュニケーションに関すること</span> </div>			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 検定教科書</li> <li>* 文科省著作の本(国・数・音)</li> <li>* 一般図書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 検定教科書 <i>副教材も通常学級と基本同じ</i></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 検定教科書(個のニーズによる) <i>使用しないことも多い</i></li> </ul>
交流等	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 社会性・好ましい人間関係を育てる視点から、実態を考慮しながら積極的に推進する。</li> <li>* 交流内容(行事等)は、個々の実態に合わせて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 落ち着いた状態で、通常学級での学習への取り組みが順調に進むようであれば、定期的に行うことを検討する。</li> <li>* 教科・内容・開始時期などは、個に応ずる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 基本、個別指導となる。</li> <li>* 実態によって、ペア学習も行うことがある。</li> </ul>
通知表	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 独自の通知表を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 個々の学びの形態により、評価者が学級担任や交流担当に分かれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通知表は、在籍校から渡される。</li> <li>* 通級からは、「個別の指導計画」で活動の様子や目標に対する評価を行う。</li> </ul>
進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 知的特別支援学級</li> <li>* 知的特別支援学校</li> <li>(※通常学級)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通常学級</li> <li>* 情緒特別支援学級 ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 通常学級</li> <li>* 情緒特別支援学級 ほか</li> </ul>

★不明な点がございましたら、学校（窓口：教頭）にご一報ください。

